

龍馬を求める人々の思いに応えるとともに、龍馬の中核施設としての機能充実を図る

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき龍馬に関する資料を収集し、適切に保存する

評価項目

- (1)他の博物館との連携や資料所有者との信頼関係の構築に努め、資料の充実を図る。
 (2)資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う。

状況説明

- (1)他の博物館との連携や資料所有者との信頼関係の構築に努め、資料の充実を図る
- ・令和2年度の5つの企画展では、これまでに築いてきた県内外の博物館などとの信頼関係や、博物館相当施設としての収蔵・展示環境の向上を生かし、数多くの貴重な資料を借用することができ、見ごたえのある展示となった。
 - ・特に、特別展においては、施設整備の目標の一つである国指定の重要文化財の展示(令和2年度は国立歴史民俗博物館所蔵の大久保家資料から2点)を、令和元年度に引き続き実現することができ、国の公開承認施設認定へと近づけた。
 - ・新収蔵資料
 - 寄贈: 東久世通禧書
 - 複製: 坂本龍馬書簡 慶応3年2月14日河田佐久間宛
- (2)資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う
- ・適正な温度・湿度の管理のもと、貴重な資料の保存環境を整えている。また、所蔵資料や図書について、劣化防止のための特別なケースで保存するなど、適切な管理を行っている。
 - ・課題であった展示室の展示ケース等の環境においては、換気の強化、吸着シートの活用など様々な対策を講じるとともに、定期的な環境測定を実施し、適正な空気環境を維持している。
 - ・資料についてデータベースを構築し、資料管理の効率化とレファレンスサービスの充実を図っている。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・坂本龍馬関連資料をはじめ、貴重な資料を収集し、所蔵資料の充実を進めていることが認められる。 ・県内外の博物館との信頼関係により、貴重な資料を借用するなど協力を得ることができおり、魅力ある展示につながっている。 ・展示環境の課題に対し、必要な対策を講じて、適正な環境を維持している。

評価項目

職員の専門性の向上を図るとともに、龍馬とその関連分野に関する調査研究を進め、その成果を、展示や広報媒体などを通じて、広く公開する。

状況説明

- ・学芸員が行った調査・研究については、年4回の企画展を開催して展示内容に反映するとともに、展示期間中の担当学芸員によるギャラリートークの実施や、小冊子の作成などにより、研究成果をより深く伝えている。
- ・歴史研究者等による記念講演会では、様々な視点から専門性の高いテーマを取り上げ、龍馬や幕末期の研究をめぐる新たな知見などを広く公表した。
- ・講演会の動画配信やYouTubeを活用した企画展の解説など、来館できない方に対しても龍馬の研究成果に触れる機会を創出している。
- ・研究紀要、館の広報誌「飛騰」の発行、メディアへの寄稿などを通じて、専門的な調査研究や知見を分かりやすく紹介した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関等とも連携して、調査・研究分野の拡大に積極的に取り組んでおり、他県の施設から借用した資料の展示や、他施設から講師を招いて講演会を開催するなど、企画展の内容の充実につながっている。 ・専門性の高いテーマを取り上げた講演会等の開催、無料小冊子や研究紀要の発行等により、調査・研究を広く公表したことが認められる。 ・YouTubeなどを活用して、講演会や企画展の解説の動画配信を行うなど、来館できない方に対しても研究成果に触れる機会を創出していることが認められる。

要求水準－展示・公開

土佐の気風と幕末維新の息吹が感じられる魅力ある展示やサービスの提供により、龍馬の業績を伝える

評価項目

- (1) 来館者に龍馬の志や生涯を深く理解してもらえる魅力的な常設展・企画展を開催し、5年間で80万人以上の観覧者を目指す。
- (2) 龍馬に関する専門施設として、一人ひとりの疑問に答えるレファレンスサービスや、学芸員によるギャラリートークなど、来館者の理解が深まる取り組みを充実させる。

状況説明

- (1) 来館者に龍馬の志や生涯を深く理解してもらえる魅力的な常設展・企画展を開催し、5年間で80万人以上の観覧者を目指す
 - ・新型コロナウイルス感染拡大により、県外からの来客数が激減したため、令和2年度の来館者数は58,269人となり、目標とである年間来館者数16万人を大きく下回った。(令和元年度の62%減)
 - ・県外からの修学旅行の件数は、前年度の5倍となっており、歴史学習の拠点施設となるよう取り組んでいる。(5千人余が来館)
 - ・新館の常設展示では、幕末を象徴するペリー来航の展示に始まり、龍馬の生い立ちから幕末の歴史的な出来事を辿る中で、龍馬をはじめ新しい国づくりに向けて活躍した土佐の志士たちの書簡、京都土佐藩邸や大政奉還に関連する資料などを時系列的に展示した。龍馬の書簡に関しては、原文・翻刻文・現代語訳・解説の4段階構成での展示を継続し、理解を深めていただくよう取り組んでいる。
 - ・本館では、郷土史とともに龍馬を学ぶことができる展示内容にしており、新館と本館の両方で龍馬や幕末史の理解が深まるような企画を継続して実施している。
 - ・各企画展においては、様々な人々のニーズに応える幅広いテーマを設定し、龍馬や幕末期の歴史の意義深さを感じる内容としている。また、特別展では、国指定の重要文化財をはじめ、他県の施設等から貸し出しを受けた資料により、訴求力の高い展示を実施した。
 - ・「海のみえる・ぎやらりい」では、企画展と関連した展示を行い、館全体で一つのテーマに基づいた展示の実施を試みた。
- (2) 龍馬に関する専門施設として、一人ひとりの疑問に答えるレファレンスサービスや、学芸員によるギャラリートークなど、来館者の理解が深まる取り組みを充実させる
 - ・龍馬に関する専門的な問い合わせについては、学芸員が丁寧に答える取り組みを行った。また、様々な団体からの講演依頼(講師派遣回数8件)や取材申し込みについて、可能な限り応えた。
 - ・各企画展では、担当学芸員のギャラリートークの実施や、図録、小冊子、リーフレットの配布等により、展示内容の理解が深まる取り組みを行った。
 - ・修学旅行や団体で訪れる来館者向けに、当館の案内等を紹介したDVDの無料の貸し出しを行うことによって、観覧前の事前学習につなげ、資料の理解を深める取り組みを行った。
 - ・長引くコロナ禍の影響で、人的交流に規制がかかり来館が難しくなったため、企画展の資料解説をオンライン動画で行い、展示資料の理解を深めていただくなど、新たな情報発信の取り組みを行った。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、来館者が年間目標である16万人に届かなかったが、県外からの修学旅行件数の増加に積極的に対応し、歴史学習の拠点施設と位置づけられるよう取り組みを進めている。 ・企画展の資料解説をオンライン動画で配信するなど、コロナ禍に対応した新たな情報発信に取り組んでいる。 ・専門的な資料展示の新館、より身近にわかりやすく説明している本館と、二つの違った趣向の展示をすることにより、龍馬の活動や業績について、龍馬ファンのみならず幅広い来館者の方々に幕末の歴史の魅力を伝える展示としている。 ・来館者のみならず、龍馬と幕末に関心を持つ全国の方々への疑問や意見に応じている。

要求水準－教育・普及

次代を担う子どもたちをはじめ、県民に龍馬について正しく理解してもらうため、教育普及活動の充実を図る

評価項目

- (1) 学校との連携による出前授業の実施や校外学習活動の受入を積極的に行うなど、子どもたちの幕末維新や土佐の歴史を学ぶ機会を充実させる。
- (2) 龍馬に関する講座やシンポジウムの開催など、龍馬への県民の理解が深まる取り組みを充実させる。

状況説明

- (1) 学校との連携による出前授業の実施や校外学習活動の受入を積極的に行うなど、子どもたちの幕末維新や土佐の歴史を学ぶ機会を充実させる
 - ・新型コロナウイルス感染予防の観点から、学校からの依頼となる出前教室の実施は少なかったが、(1校 12人)、休校に伴い開設される小学校の放課後児童クラブからの依頼があり、紙芝居やお話などによる出前授業(17件 720人)を実施し、龍馬の生涯などへの理解をすすめた。
 - ・当館への来館による学習を支援するため、県内小中学生の来館用バスの借上げ費用の一部を助成する、学習遠足支援事業を行った。(14校)
 - ・事前学習用DVDを作成し、遠足等で来館する学校の希望者に対して、無料での貸し出しや解説を行った。
 - ・夏休み期間に企画展に関連した工作教室を実施し、昔の手紙の書き方や「折本」づくりに挑戦した。(9人参加)
 - ・新型コロナウイルス感染予防の観点から、都市部への修学旅行先や校外学習先を当館に変更した学校が多く、県内からは32件 1,217人(うち、修学旅行6件 197人)、県外からは80件 5,069人の来館があった。
- (2) 龍馬に関する講座やシンポジウムの開催など、龍馬への県民の理解が深まる取り組みを充実させる
 - ・第3回目となる連続講演会「幕末再考-変革への計と践」全5回を企画した(4回実施、のべ194人参加。第5回目は新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から中止)。
 - ・企画展ごとに、他館学芸員等や歴史研究者による講演会を開催し(のべ143人参加)、企画展期間中には担当学芸員による展示解説を行った。
 - ・新たな試みとして、YouTubeを活用した企画展の解説や、講演会の動画を配信した。
 - ・館外から依頼があった講演会等へは、県立大学や生涯学習講座などに学芸員が講師として積極的に出向き、坂本龍馬の歴史的な役割や意義などについてさらなる理解をすすめた。(6件)
 - ・令和元年度の連続講演会の講演録を作成し、県内の図書館・博物館等に配布することにより、多くの方々に興味・関心を持ってもらう取り組みを進めた。
 - ・龍馬をはじめ、高知城周辺にある幕末の人物の銅像をガイドとともに巡りながら、地域の歴史にふれるウォーキングイベントを実施し、19人が参加した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により増加した県外からの修学旅行に対し、坂本龍馬について解説したDVDの無料貸出しなど積極的に対応しており、歴史学習の拠点施設としての位置づけにつなげている。 ・学校や放課後児童クラブへの出前授業、学習遠足への支援などにより、子どもたちが歴史に興味を持つきっかけにつながる取り組みを継続して行っている。 ・連続講演会やウォーキングイベントなど、歴史愛好家のニーズをふまえた企画を実施している。 ・YouTubeを活用した企画展の解説や、講演会の動画配信などにより、来館できない方も龍馬や幕末期の歴史に対する理解を深められる取り組みを実施している。 ・他施設からの講演会等の依頼にも積極的に対応し、龍馬の業績や幕末の歴史に対する理解が深まるよう取り組んでいる。

要求水準－観光振興

評価項目

「桂浜」や「龍馬像」に隣接する立地条件を生かし、龍馬を核とした事業の実施などにより、観光資源としての魅力の充実を図る。

状況説明

- ・桂浜への道順や周辺の碑などを紹介した地図を作成し、受付や出口等で希望される方に配布して、桂浜地域への周遊を促す取り組みを行った。
- ・11月15日には、「龍馬まつり in 桂浜」に協賛するとともに、「龍馬まつり in 記念館」を無料開館で開催し、桂浜地域施設と連携した誘客に努めた。(1,327人)

評価	理由
B	・新型コロナウイルス感染症によって県外観光客が大きく減少するなか、当館を訪れた観光客に対する地域周遊促進の取り組みや、他団体が桂浜で実施するイベントへの協賛及び関連企画の開催など、観光振興への取り組みを行っている。

要求水準－広報

龍馬に関する情報を全国に発信し、新たなファン層の拡大とリピーターの定着を図る

評価項目

- (1) 坂本龍馬記念館の活動に関する戦略的な情報発信により、より多くの方に龍馬を知ってもらうとともに、県内外に館の魅力を広める。
- (2) 来館者が龍馬に宛てて手紙を書く「拝啓龍馬殿」など、来館者の思いをくみ上げる取り組みを継続して行うとともに、その内容を活用し効果的な広報を行う。

状況説明

- (1) 坂本龍馬記念館の活動に関する戦略的な情報発信により、より多くの方に龍馬を知ってもらうとともに、県内外に館の魅力を広める。
 - ・FM 高知での番組提供、高知駅でのデジタルサイネージ広告、高速道路地図への広告掲載などを行ったが、コロナ禍のため、CM や新聞広告などのメディアを活用した十分な広報ができなかった。
 - ・講演会の資料を入れる際に、次回企画展情報等を印刷した封筒を使用するなど、地道な広報活動を行った。
 - ・県による広報宣伝を積極的に活用し、高知県広報誌やテレビ・ラジオでの広報、コンビニエンスストアなどでのチラシ配布等を行った。
 - ・企画展については、ホームページやポスター・チラシをはじめ、SNS や YouTube を活用した新たな広報活動にも取り組んだ。
- (2) 来館者が龍馬に宛てて手紙を書く「拝啓龍馬殿」など、来館者の思いをくみ上げる取り組みを継続して行うとともに、その内容を活用し効果的な広報を行う。
 - ・来館されたお客様をはじめ、電話、メールでの問合せやご意見については、真摯に対応した。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、不特定多数の方が手に取るアンケートや「拝啓龍馬殿」を中止しているため、来館者の多くのご意見を聴取することが叶わなかった。また、タブレットでのアンケートの導入も試行したが、定着できる環境になかった。
 - ・「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」により、パンフレットの手渡しや来館者へ直接に案内する等の規制があるため、館内順路の標識を多く設置して対応した。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none">・ホームページやSNS、FM高知など様々なメディアを活用し情報発信を行ったことが認められるが、コロナ禍の影響もあり、来館者数が年間目標の16万人に達しなかった。・来館されたお客様をはじめ、電話、メールでの問合せやご意見については、真摯に対応していることが認められる。

要求水準－その他
評価項目 県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る

状 況 説 明
<ul style="list-style-type: none"> ・企画展での記念講演会をはじめ、連続講演会では県外講師を中心に、幕末の佐賀藩や毛利敬親など今まで取り上げたことのない内容についての講演会を行うなど、他の博物館と新たな連携に取り組んでいる。 ・企画展において、県外の博物館等と連携した企画を練り上げ、貴重な資料群の借用などを通じて展示の内容と機会の充実を図った。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外の他の博物館等と連携した事業の充実が認められ、展示や講演会の内容の向上に繋がっていることが認められる。 ・講演会について、龍馬だけにとどまらない多方面からのアプローチによる内容で講義を行い、参加された方や講師の方から高い評価を得ている。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1)適切な管理運営の確保	社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
	建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
	危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

- ・法令等の遵守及び個人情報の適切な保護に努めた。閲覧請求にも適切に対応した。
- ・建物や設備の管理は専門の保守管理業者に委託しており、業者との連絡を密に行い、来館者の安全と展示室の適正な環境管理に努めた。
- ・消防計画に沿った館内組織体制を定め、危機管理マニュアルに基づいて職員に周知を図るとともに、職員から見える位置に常時掲示している。
- ・地震等への備えについては、高知市と連携して避難所としての必要な物資の備蓄を備えるとともに、保管場所等について、職員に周知を図っている。また、桂浜荘と合同で地震の際の避難対応訓練を実施した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策については、「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づく感染対策を行い、来館者と職員の安全管理を行った。
- ・年末に心無い来館者により、器物損傷事例が起こったが、高知県文化振興課及び高知県警と連絡を密にして、対応を行った。

評価	理由
B	・器物破損等の不測の事態においても、関係機関と連携した対応を行っており、概ね要求水準どおりの適切な管理運営を行っている。

評価項目	
(2) 利用者サービスの維持向上	・利用者の意見の反映 自己点検、評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み

状況説明
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、記述式のアンケートや「拝啓龍馬殿」を休止しているため、来館者の声を拾いにくい状況であったが、電話やメール等でいただいたご意見については、真摯に対応した。 ・新型コロナウイルス感染拡大予防対策については、職員間で何回も検討会を行い、十分な対策を講じながら改善を重ねている。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策も館を挙げて実施しており、概ね要求水準どおり、利用者サービス向上に向けた取組を行っている。

評価項目		
(3)利用実績	利用実績の状況	・利用状況の分析

状況説明
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響により来館者数が大幅に減少したため、令和2年度の来館者数は 58,269 人と年間目標の 16 万人には及ばなかった。(令和元年度の約 38%、前年度比 62%減) ・GOTOトラベルが始まった7月頃から徐々に回復傾向にあり、特に 11 月、12 月においては修学旅行による回復が見込まれたが、第 3 波により 12 月 28 日に GOTOトラベルが一切停止したため、再度、入館者数が減少傾向となった。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響は大きく、県外からの観光客が大幅に減少しているが、SNSやメディアを活用した情報発信や、企画展の解説や講演会を動画配信で行うなど、誘客に向けた取り組みを実施していることが認められる。

評価項目		
(4)収支の状況	経営努力	・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み

状況説明
<p>・来館者数の減少に伴い、観覧料収入などの事業収入も減少したが、光熱水費の節減や日々の消耗品の節減、企画展の印刷物やメディア広報の数量の見直しなどを行い、経費節減に努めた。</p>

評価	理由
B	<p>・新型コロナ対策の影響によって来館者が大幅に減少したため、事業収入が減収となったが、経費削減に努め、対応したことが認められる。</p>

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大により、各種イベントの中止や、県をまたいだ人的交流に規制がかかったことから、県外からの来館者が多数を占める当館は大きな影響を受け、目標観覧者数 16 万人を大きく下回る結果となった。 ・企画展・特別展は計画通り実施し、充実した展示を行った。特に特別展においては、昨年度に引き続き国指定の重要文化財の展示を実現し、文化庁の公開承認施設への歩みを進めることができた。また、特別展期間中は「海のみえる・ぎやらりい」において現在の鹿児島県と高知県を紹介した関連展示を行い、館全体で特別展を盛り上げる試みを行った。 ・各企画展での記念講演会や、「幕末再考 ―変革への計と践」をテーマとして行った連続講演会では、3密を避けるためホールの定員を半分にする工夫等により実施した。講演会の内容については、参加者及び講師の方々から充実している、講義内容の水準が高いとのお声をいただいている。 ・講演会の講演録の作成、企画展を担当学芸員が解説する YouTube の公開、SNS 等を活用した広報に加え、スマートフォン対応の音声ガイドサービスの企画など、Web を使った新たな取り組みを行い、県内外の方々へのイベントの周知と、幕末史や龍馬への関心を広めることにつなげた。 ・業界ガイドラインを遵守し、マスク着用・入館時の検温・手指の消毒や館内の換気等、感染防止の一連の取り組みを着実にやっている。 ・資料収集については、これまでの関係者との信頼関係の構築により、貴重な資料の寄贈を受けることができた。また、県外の博物館が収蔵している龍馬の書簡を1件複製するなど、着実な取り組みが認められる。 ・児童生徒への教育普及活動については、コロナ禍の影響で学校等への訪問回数は少なくなったが、県内外からの修学旅行件数が増え、歴史学習の拠点施設の位置づけにつなげることができている。 <p>以上のことから、概ね要求水準を満たし、適正に管理運営・事業の遂行がされたと認められる。</p>

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。